

2023年度白樺サロンの会（全6回）
志賀直哉旧居特別講座

新たな高畑文化、15年を迎えて

古都奈良の地は千年の風雪を越えてなおその美を歌う。
この廃都の地を、名画の残欠が美しいようにうつくしい、と志賀直哉は言い、
旧居における自身の思索を「手帖から」に記している。
地に、古代の白眉が優に千年を越えて伝わり、近代に脱俗の場所として
画家や作家が住み着いた。
伝わる美の世界は歴史を超える普遍的な人間の意味を、静謐なその地は、
深い思索をわれわれに与える。（白樺サロンHP から）

6月19日（月）14：00～15：30
「志賀直哉「ナイルの水の一滴」
—西洋的なもの、日本的なもの—」
相愛大学名誉教授 呉谷充利氏

9月18日（月）14：00～15：30
「泉鏡花『露宿』とその周辺」
帝塚山大学教授 西尾元伸氏

7月17日（月）14：00～15：30
「魅惑の演劇、演劇の魅惑」
劇作家・関西学院大学教授 東浦弘樹氏

10月16日（月）14：00～15：30
「奈良に受け継がれる仮面と芸能」
奈良県立美術館 三浦敬任氏

8月21日（月）14：00～15：30
「夏目漱石『夢十夜』を読む」
奈良女子大学文学部准教授 吉川仁子氏

11月20日（月）14：00～15：30
「明治・大正期と奈良の美術」
美術史家・愛知県美術館 平瀬礼太氏

【申込先】

- ◆参加費 各回 350 円 入館料込（奈良学園教職員、在籍者は無料です。）
- ◆定員 各回 20 名（事前申込先着順）※定員になり次第、申込を締め切ります。
- ◆会場 志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）奈良市高畑町 1237-2
- ◆申込 志賀直哉旧居（0742-26-6490）(seminar@naragakuen.jp)にお申し込みください。
- ◆主催 学校法人奈良学園志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）、白樺サロンの会

2023 年度志賀直哉旧居講座

志賀直哉「ナイルの水の一滴」、「魅惑の演劇、演劇の魅惑」、泉鏡花『露宿』、「奈良に受け継がれる仮面と芸能」、夏目漱石『夢十夜』、「明治・大正期と奈良の美術」、講座のタイトルの一端をここに挙げてみました。2008年10月4日「志賀直哉旧居保存運動30周年メモリアル」から15年を迎えます。その節目を飾るにふさわしい講座となりました。ご来場をお待ちしています。

6月19日（月）14:00～15:30

「志賀直哉「ナイルの水の一滴」—西洋的なもの、日本的なもの—

相愛大学名誉教授 呉谷充利氏

志賀直哉はみずからを文学に表現して、最晩年に「ナイルの水の一滴」としての自身を語っています。ナイルの水の一滴に比喻される生の意味は、鈴木大拙の思想にその拠り所を見ることができているのですが、大拙と直哉の見方には、一つの違いがあります。前者の宗教性にたいして、志賀直哉は、いわば文学的なりアリズムを以てただ一つの繰り返すことのできない生をそこに見ています。こうしたことをさらに西洋的な見方にたいする東亜・日本的な見方において考えてみたいと思います。

7月17日（月）14:00～15:30

「魅惑の演劇、演劇の魅惑」 劇作家・関西学院大学教授 東浦弘樹氏

演劇＝芝居にはどのような魅力があるのだろうか。

Amazon Prime や Netflix で映画が自宅で見られるようになった現在、わざわざ劇場まで行って芝居を見る意義はなんだろうか。本講座ではフランス文学者であり劇作家・役者でもある東浦が、ピーター・シェーファーの『エクウス』、ブロードウェイミュージカル『ピピン』、音楽座の『シャボン玉飛んだ、宇宙まで飛んだ』、つかこうへいの『広島に原爆を落とす日』など、これまでに自分が見た芝居や自分が執筆し出演した芝居を紹介しながら、演劇の魅力や意義についてお話しします。

8月21日（月） 14:00～15:30

「夏目漱石『夢十夜』を読む」 奈良女子大学文学部准教授 吉川仁子氏

志賀直哉は、夢を素材とした作品を多く書いていますが、志賀の尊敬する夏目漱石も『夢十夜』を書きました。『夢十夜』は「第一夜」から「第十夜」までの短い作品で構成されており、そのうちのいくつかは「こんな夢を見た」という書き出しで始まります。十夜のうちには、美しい夢もあれば、悪夢のようなものもあります。「第一夜」は、「百年待つてみて下さい」と言い残して死んだ女と、その言葉通りに待ち続ける男の話です。〈ロマンチック〉という言葉で語られることの多い「第一夜」ですが、この「夜」からどのようなことが読み取れるか考えます。「第一夜」を中心にしつつ、ほかの「夜」についても触れたいと思います。

9月18日（月）14:00～15:30

「泉鏡花『露宿』とその周辺」 帝塚山大学教授 西尾元伸氏

『露宿』（大正12）は、関東大震災で被災した泉鏡花が、避難のために野宿を強いられた際の体験を記した随筆作品です。2023（令和5）年は、泉鏡花生誕150年を記念する一年であると同時に、関東大震災から100年という年でもあります。関東大震災という厄災のなかで、鏡花は何を見て何を書き残したのか。今回の講座では、他の作家が残した文章なども参照しながら考えます。そして、関東大震災が、鏡花の創作においてどのような位置を占めるのかについても考えてみたいと思います。

10月16日（月）14:00～15:30

「奈良に受け継がれる仮面と芸能」 奈良県立美術館 三浦敬任氏

奈良県立美術館では2023年9月30日～11月12日に「仮面芸能の系譜—仮面芸能のふるさと奈良—」展の開催を予定しています。わが国は、先史時代から連綿と続く仮面芸能が生きづく希有な文化を持っています。縄文時代の土面に始まり、奈良時代に百濟から伝わった伎楽や、大陸から伝来し平安時代に集大成された雅楽・舞楽。また曲芸的な散楽、水田耕作と密着した田楽。その淵源が謎に包まれた予祝舞・翁舞や、中世に大和国において猿楽から発展した能狂言へとつながります。本講座では、仮面芸能の系譜を「奈良」に残る仮面・芸能の紹介を通じて解説いたします。

11月20日（月）14:00～15:30

「明治・大正期と奈良の美術」 美術史家・愛知県美術館 平瀬礼太氏

これまで、昭和期の奈良の美術について及び戦争と美術とのつながりについて、数回にわたり解説してきました。今回は、明治、大正期における奈良の美術について触れたいと思います。